

東京都北区立図書館(2/2)

特徴だけいくつかご紹介します。

「北区の部屋」という郷土資料コーナーがあります。北区史に精通した学芸員がいるので、レファレンス対応してくれます。大変お世話になりました。

「北区の部屋」にあるパソコンから国立国会図書館所蔵のデジタル資料を閲覧できたので、河出書房新社創業 130 周年事業で関東大震災や第二次世界大戦で燃えてしまった戦前の書籍を見事に調査することができました。1886 年の創業当時の河出書房新社は岐阜の「成美堂書店」の東京支店として東京日本橋に設立されたのが始まり。日本橋地区で何度か移転後、昨年5月に新宿区五軒町に移転。

「公開書庫」は普段閉架書庫に所蔵している資料を公開している書架です。開架と閉架の間に位置する資料といえばわかりやすいでしょう。道内でも石狩市民図書館などが設置していますよね。

バリアフリーがとても行き届いています。先ほどの中央公園の隣に王子特別支援学校があり、生徒がときどきグループで来館します。ストレッチャーに乗った状態で来館する方もいます。

煉瓦棟は天井が高いのでとにかく音が響きます。週末など来館者の多い時間帯はあまり意識ませんが、夕方から夜になり来館者が減ると、ブックトラックを動かすだけでも響きます。

私がこの図書館に勤務した期間は長くないですが、とても濃厚な時間を過ごすことができましたと思っています。この経験がなければ今がない。河出書房新社資料室改革も北海道図書館研究会を立ち上げることもなかったでしょう。長年の本の仕事の中できっと大きなターニングポイントだったのかもしれない。

やりたいことは色々やらせてやってきました。昨年も春に東京お茶の水で開催した「どこコレ? 東京篇」の写真の一部は、私が昭和から平成にかけて撮影した東京の写真です。

ちなみに「どこコレ?」とは、NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台が収集した写真等の中で、「コレ」は「どこ」なのかわからないものを公開展示し、来場者に情報提供を募り、コレクションするプロジェクトです。

北区立中央図書館でも私の写真を展示し、昭和から平成へというテーマ展を大々的に行いました。展示で使用する資料や CD をほとんど 20 代から 50 代まで幅広くいたスタッフに選んでもらいました。世代によって選書の思考が違うのです。どう違うかを調査したかったのです。偶然、卯年が 4 人もいた幅広いスタッフの年齢構成による選書はとても勉強になりました。

私が去った後、一部館内を改修して「ドナルド・キーンコレクションコーナー」ができました。キーンさんは北区滝野川に住んでおり、生前にご自宅に所蔵している図書を北区へ寄贈してコーナーを作ることができました。実際にご来館したこともあります。

館長は図書館をよく利用する方、館内をほとんど歩かない方、利用者カードすら持っていない方などいろいろおりました。皆さんの図書館の館長はいかがでしょう？

カウンターや配架などの現場実務は図書館流通センターが業務委託として行なっています。指定管理ではないです。

自宅から徒歩 15 分で行けた図書館なので東京を離れるまでフル活用しました。相互貸借担当に他の区や町から貸借する場合、「〇〇図書館に所蔵していて、ここからなら確か今週の金曜日回送があるよね」と言って、何ともうるさい利用者だったと思います。

最寄り駅は JR 十条駅、東十条駅、王子駅。いずれからも徒歩 15 分ぐらいで行けます。

自宅から徒歩圏内に図書館があるって良いよなと思いますが、あいにく今は徒歩圏内にならないのが残念です。

2024 年 10 月訪問

加藤 重男